

全国草原再生ネットワーク

ニュースレター

vol.2 (2010, Apr.)

小さな草地在る早春植物

「スプリング・エフェメラル」という言葉をご存じでしょうか？ 日本語に訳すと「春の妖精」。雪解けの頃に地上に姿を出し、木々が葉を開く頃には見えなくなってしまう、早春の短い間にだけ姿を見せる植物などです。厳しい冬を忘れさせる力強さが感じられるからでしょうか、この時期になると、各地の早春植物の生育地には、多くの人を訪れます。

ここ数年、中国地方の早春植物をいくつか見学に行く機会がありました。カタクリ、ミチノクフクジュソウ、アマナなどを見学しましたが、その中で感じたことが、多くの種類が、雑木林、田畑の畦、山裾の草刈り場など、人手の加わった里地環境に依存していたことです。

中でも、島根県でみたミチノクフクジュソウ、イズモコバイモ、広島県でみたセツブンソウは、山裾の草刈り場や田畑の畦などの草地に生えていました。地元の人にヒヤリングしてみると、むかし牛の飼料を得るための草刈りをしていたところ、田に入れるために草を刈っていたところ、田畑に光を確保す

ミチノクフクジュソウ
代表的な早春植物

るために山裾を刈っていた場所などでした。いずれも、地域の人たちによって、生活のために草刈りが続けられていた場所であることがわかりました。

この3種類は、いずれも絶滅が心配されている植物で、各地で姿を消しつつあります。どこ



ミチノクフクジュソウの生育地
牛の飼料を得るために刈られていたとのこと



にでもある小さな草地ですが、これだけの希少植物の生育地となっていました。小さな草地でも、地域の生物多様性を支える大切な場所にな



セツブンソウ
山裾で、田畑への光確保のため刈られていた

ることを、あらためて実感することができました。



イズモコバイモ
山裾で草刈りが続けられてきた

各地の会員からの報告

【阿蘇の野焼きボランティア養成講座に参加しました】

今年の2月に阿蘇のボランティア研修会に参加しました。私は、広島県でボランティアとして野焼きに参加していますが、阿蘇では事前の研修会を受けなければ、ボランティアとして野焼きに参加できないことを知り、是非この研修会を受けてみたいと思いました。研修会の1日目は、野焼きに関する注意事項を聞き、火消し棒作りを行いました。野焼きを行うときの服装や火にかこまれたときの対処方法等、知らないことが多く、大変勉強になりました。火消し棒



2日目の野焼き体験の様子



2日目の野焼き体験の様子
実際に火が入り、火消しを体験した。

作りはリーダーに教えていただきながら、作りました。同じ方法で作っても、できあがった火消し棒は皆それぞれ個性的で、愛着のわく火消し棒ができあがりました。2日目は現地で野焼きを体験しました。焼いた場所は、田んぼに囲まれた一つの山でした。広島県で行われている野焼きは面積が狭いので、研修用として一つの山を焼くことには驚きました。この研修会で得たことを、広島の仲間にも広めていきたいと思えます。(佐久間智子：広島県在住)

【小貝川の火入れ後の観察会に参加しました】

2010年4月18日、茨城県、小貝川の河川敷において植物の観察会が開かれました。この小貝川の河川敷の火入れは今年の1月に行なわれたそうです。ここは、小規模な火入れ地がいくつかあるもので、その中にはすぐ横に竹林が迫っている場所もありました。そういった場所では、延焼を防ぐために、全体を燃やすのではなく、草を数カ所に集めて部分的に燃やしているそうです。随分と手間と人手がかかる作業だなと感じました。

ただ、こうして火入れをされたこの場所には、多くの絶滅危惧植物がいるとのこと。今回は、ノウルシが咲き誇っていました。写真の地面にある草は少し黄色がっていますが、これは花が咲いているノウルシです。ほかにも、ムラサキケマン、ニョイスミレ、コオニタビラコなどが咲いていました。多くの人々が参加していた、活気のある観察会でした。また別の時期に行きたいものです。(増井太樹：東京都在住)



【「雲月の宝」が出版されました】

この写真集は、雲月小学校の子ども達が、総合学習の時間を活用して、編集会議をし、1年間をかけて写真を撮影し、選び、言葉を添えたものです。30枚ほどは大人の写真も入っていますが、他は全て子ども達の作品です。彼らが伝えたいと感じた雲月の魅力がしっかりと詰まっています。(白川勝信：広島県在住)

定価 2,000円 (税込み、送料別)

【問い合わせ先】：高原の自然館：0826-36-2008



【野焼き安全対策マニュアル」が発行されました】

草原の価値が見直されつつある今、各地の野焼き・火入れや防火帯刈りに、ボランティアが参加する機会が増えています。地元の人々が高齢化する中、新しい担い手として大きな期待がかかっています。その一方で、火にまかれて命を落とす事故も後を絶ちません。安全に野焼きを続け

ていくためにも、もう一度安全対策を見直してみませんか。阿蘇では、長年のボランティア参画で培われたノウハウを、マニュアルとしてまとめました。各地の活動の参考になる資料です。(山内康二：熊本県在住)

【問い合わせ先】財団法人阿蘇グリーンストック
〒869-2237 熊本県阿蘇市の岩 1537-1
Tel.0967-35-1110



草原をめぐる動き (2010年5月~7月)

5/15~16 上ノ原「入会の森」の生き物調べ(群馬
県みなかみ町、森林塾青水)

京都内、森林塾青水)

6/9 全国草原再生ネットワーク総会(詳細は下記の事務局からのお知らせをご覧ください)

5/30 楽習会「大好きな万葉集のススキに思う」(東

※上記以外の情報については、ホームページをご覧ください。ホームページに掲載するイベント情報もお待ちしております。

事務局からのお知らせ

【総会のご案内】総会を下記のとおり開催します。みなさまの参加をお待ちしております。

<日時> 2010年6月9日 17:00~20:00

<場所> 環境パートナーシップオフィス「EPO 会議室」(青山学院大学の向かい)

東京都渋谷区神宮前5-53-67コスモス青山 B2F

当日の連絡は事務局まで(高橋泰子:090-4808-4753)

【全国草原サミット・シンポジウムの報告書】

2009年秋、広島県北広島町で開催された「全国草原サミット・シンポジウム」の報告書ができました。入手希望の方はホームページからPDFファイルをダウンロード下さい(5月下旬公開予定)。

<連絡先> <http://shizenkan.info/>

芸北高原の自然館 tel & fax: 0826-36-2008

【会員紹介のお願い】

全国の草原の状況や再生活動を情報交換するために、より多くの方の加入を目指しています。知り合いの方で草原の保全や再生に興味のある方がいらっしゃいましたら、ネットワークへの加入をおすすめ下さい。

全国草原再生ネットワーク ニュースレター vol.2 2010年4月号

全国草原再生ネットワーク事務局

694-0064 島根県大田市大田町大田イ376-1

NPO 法人緑と水の連絡会議内 電話:0854-82-2727 FAX 0854-84-0262

【編集後記】年度末に行われた日本生態学会や日本草地学会で、草原関係の発表やシンポジウムが多くみられました。多くの研究者も草原に注目している、そんな感想を受けました。詳細については、次号のニュースレターで紹介する予定です。